



関西医科大学

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY

教育センター

CENTER FOR HEALTH PROFESSIONS EDUCATION

※本資料内容の二次利用および

無断転載・配布を禁止します

# 2022年度 DP達成度の状況 (主観的DP達成度)

分析対象者：学修時間・学修行動実態調査 691/767名  
卒業時調査 110/114名  
卒業後調査 (卒後1・2・10年目) 73/206名  
卒業生勤務先アンケート 30/41名

## 目次

1. 各調査の回答者数と回収率 . . . . . p.1
2. 各調査でのDP達成度比較 . . . . . p.2
3. 在学時～卒業後と勤務先のDP達成度評価 . . . p.3-5

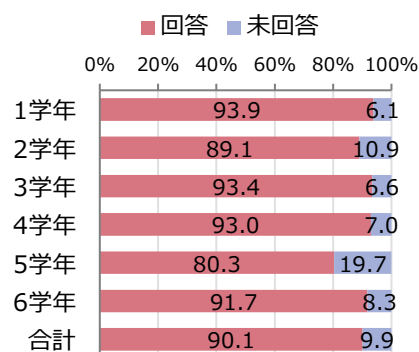
作成日：2023年 8月 3日

担当：教育センターIR部門

# 各調査の回答者数と回収率

## 2022年度 学修時間・学修行動実態調査（在学生）

	回答者数	対象者数	回収率	調査実施時期
1学年	123	131	93.9%	2023/01/11～2023/02/12
2学年	114	128	89.1%	2023/01/11～2023/02/28
3学年	114	122	93.4%	2023/01/11～2023/02/12
4学年	119	128	93.0%	2023/01/04～2023/02/12
5学年	110	137	80.3%	2023/01/04～2023/02/28
6学年	111	121	91.7%	2022/10/24～2022/12/11
合計	691	767	90.1%	2022/10/24～2023/02/28

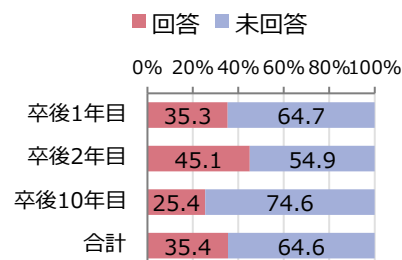


## 2022年度 卒業時調査（6学年・卒業時）

	回答者数	対象者数	回収率	調査実施時期
卒業生	110	114	96.5%	2023/01/24～2023/03/01

## 2022年度 卒業後調査（卒後1・2・10年目）

	回答者数	対象者数	回収率	調査実施時期
卒後1年目	24	68	35.3%	2023/02/16～2023/05/07
卒後2年目	32	71	45.1%	2023/02/16～2023/05/07
卒後10年目	17	67	25.4%	2023/02/16～2023/05/07
合計	73	206	35.4%	2023/02/16～2023/05/07



※卒後1年目、2年目は本学附属病院勤務の研修医および同窓会名簿よりアンケートを送付した。

卒後10年目は同窓会を通じてアンケートを送付した。

## 2022年度 卒業生勤務先アンケート

	回答者数	対象者数	回収率	平均卒後年数	調査実施時期
勤務先評価	30	41	73.2%	32.0年	2023/02/16～2023/03/31

※学外施設の本学臨床教授を対象にアンケートへの回答を依頼した。

なお、回答者の内、関西医科大学出身者は46.7%であった。

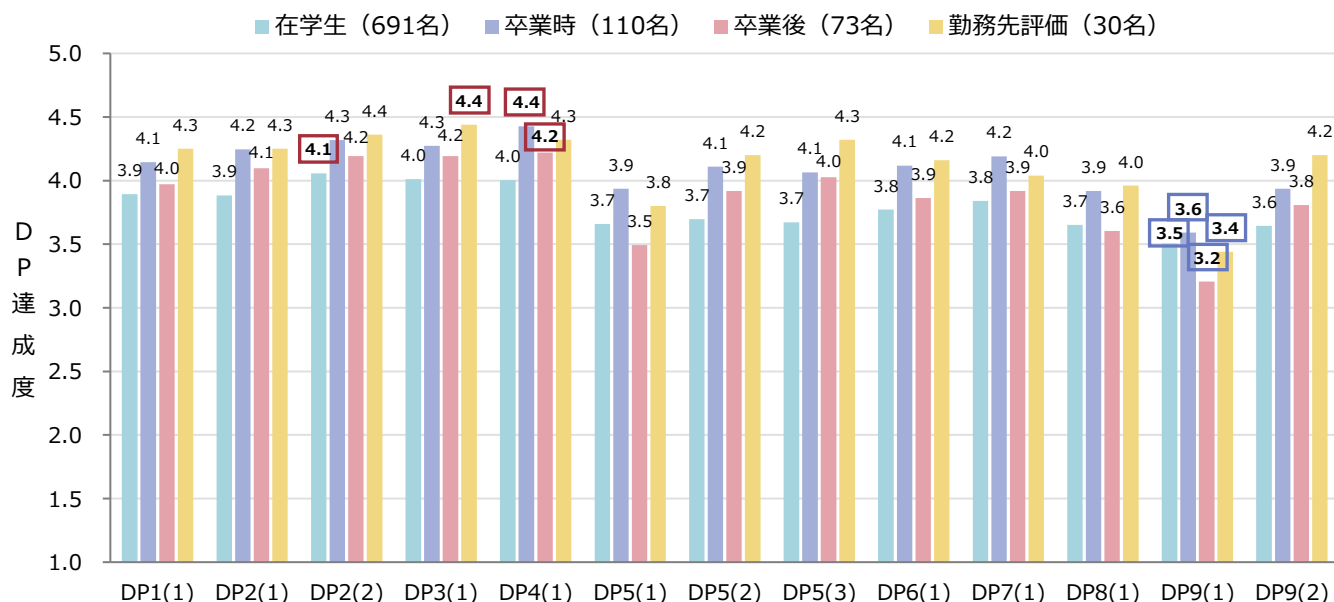
# 各調査でのDP達成度比較

## 関西医科大学ディプロマポリシー

No.	大項目	小項目	DP項目内容
1	医療人としての人間性	DP1(1)	慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として豊かな人間性を身につける。
2	プロフェッショナリズム・倫理観	DP2(1)	医師としての職責を自覚し、倫理観・使命感・責任感を涵養し、省察的態度をもって行動ができる。
		DP2(2)	法令や社会的規範を遵守し、責任ある社会人として行動ができる。
3	コミュニケーション能力	DP3(1)	コミュニケーション能力を持ち、患者・家族・同僚と良好な人間関係を築くことができる。
4	患者中心・共感の姿勢	DP4(1)	共感的姿勢を持ち、患者の立場になって行動する態度を身につける。
5	医学的知識・技能	DP5(1)	国際的・社会的に貢献できる幅広い教養、特定分野にとらわれない医学的知識を修得する。
		DP5(2)	根拠に基づいた医療を基盤とする臨床推論を実践できる。
		DP5(3)	良質で安全な医療に立脚した基本的診療能力・技能を修得する。
6	科学的思考・問題解決能力	DP6(1)	科学的な観察力・思考力・表現力を身につけ、自ら問題を解決することができる。
7	自己主導型学習・生涯学習	DP7(1)	自己主導型学習を実践し、向上心を持ち生涯にわたり学習を継続する姿勢を身につける。
8	多職種連携	DP8(1)	リーダーシップを発揮し、多職種連携による医療・研究を実践できる。
9	国際的視野・地域医療	DP9(1)	国際的視野を持ち、医療人として国際社会に貢献できる。
		DP9(2)	地域における保健・医療・福祉を理解し、医療人として地域社会に貢献できる。

## 在学生、卒業時、卒業後のDP達成度自己評価および勤務先DP達成度評価

※学修実態調査（在学生）は1（達成できていない）～5（達成できた）、卒業時調査は1（到達できていない）～5（十分に到達できた）、卒業後調査では1（該当しない）～5（該当する）で到達目標の達成度を自己評価、勤務先アンケートでは勤務中の「本学卒業生の医師」について1（該当しない）～5（該当する）で評価。

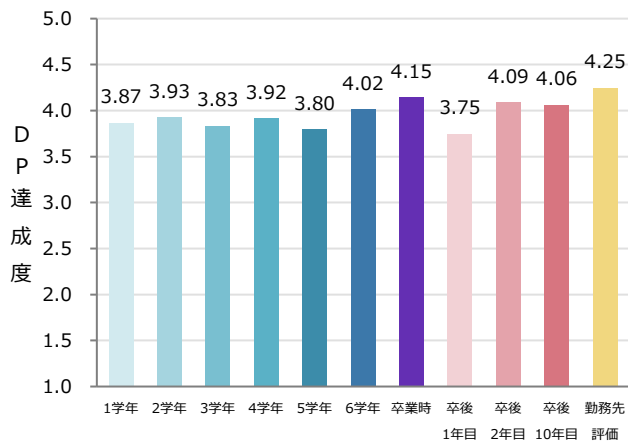


### まとめ

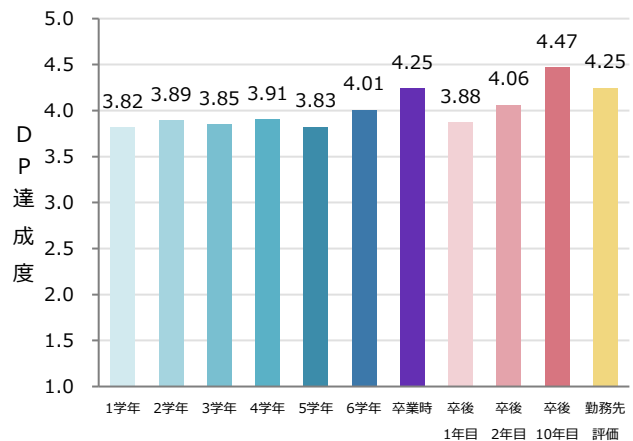
- **達成度評価が高い項目**：在学生・卒業時・卒業後の自己評価ではDP2(2)「法令や社会的規範を遵守し、責任ある社会人として行動ができる」、DP4(1)「共感的姿勢を持ち、患者の立場になって行動する態度を身につける。」が高い、勤務先評価ではDP3(1)「コミュニケーション能力を持ち、患者・家族・同僚と良好な人間関係を築くことができる。」が最も高く、DP5(3)も高い。
- **達成度評価が低い項目**：DP9(1)「国際的視野を持ち、医療人として国際社会に貢献できる」は在学生～卒業後まで一貫して評価が最も低く、勤務先評価も最も低い。その他、DP5(1)、DP8(1)も低い。

# 在学时～卒業後と勤務先のDP達成度評価

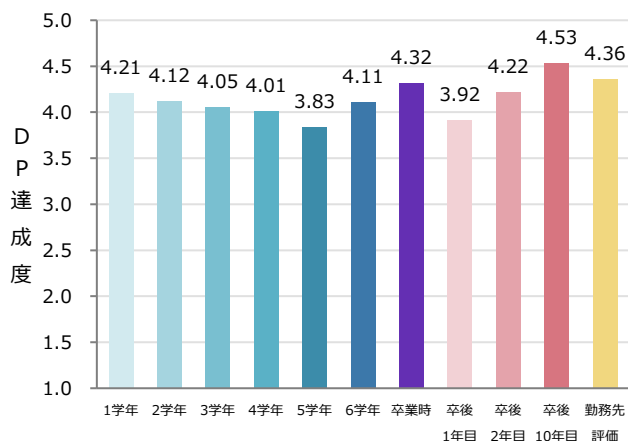
**DP1(1)** 慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として豊かな人間性を身につける。



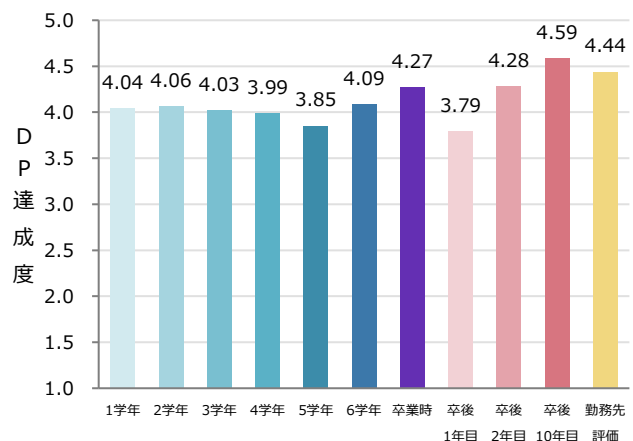
**DP2(1)** 医師としての職責を自覚し、倫理観・使命感・責任感を涵養し、省察的態度をもって行動ができる。



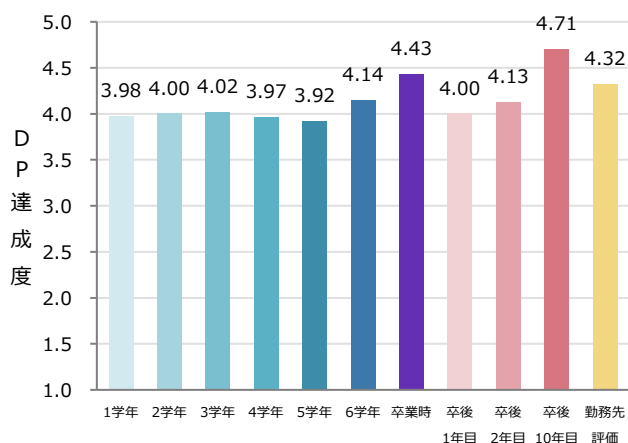
**DP2(2)** 法令や社会的規範を遵守し、責任ある社会人として行動ができる。



**DP3(1)** コミュニケーション能力を持ち、患者・家族・同僚と良好な人間関係を築くことができる。

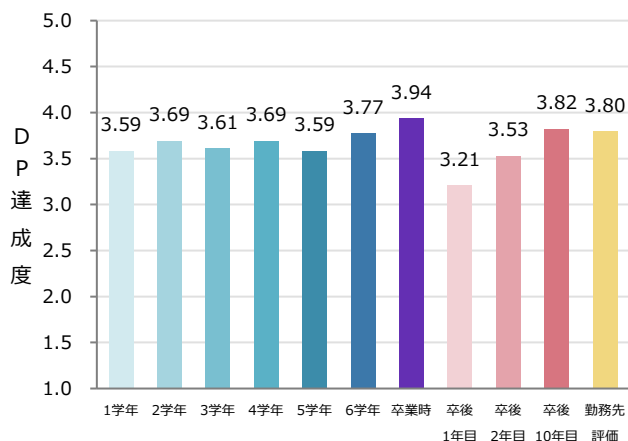


**DP4(1)** 共感的姿勢を持ち、患者の立場になって行動する態度を身につける。

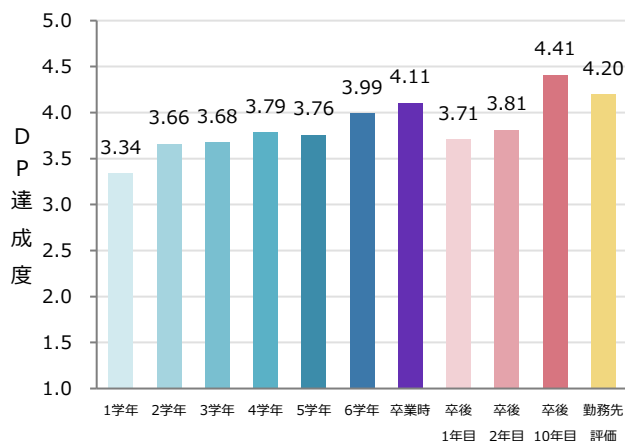


# 在学时～卒業後と勤務先のDP達成度評価

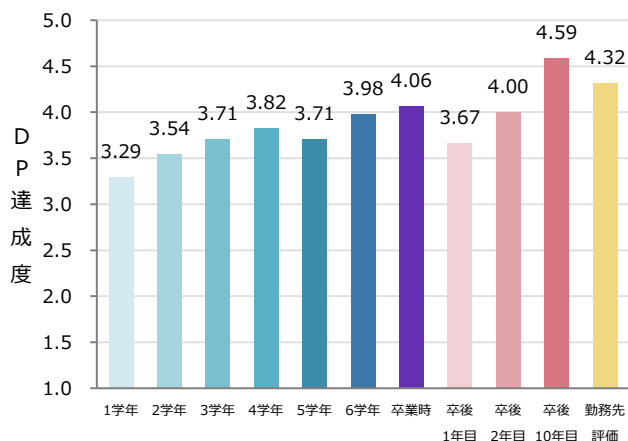
**DP5(1)** 国際的・社会的に貢献できる幅広い教養、特定分野にとらわれない医学的知識を修得する。



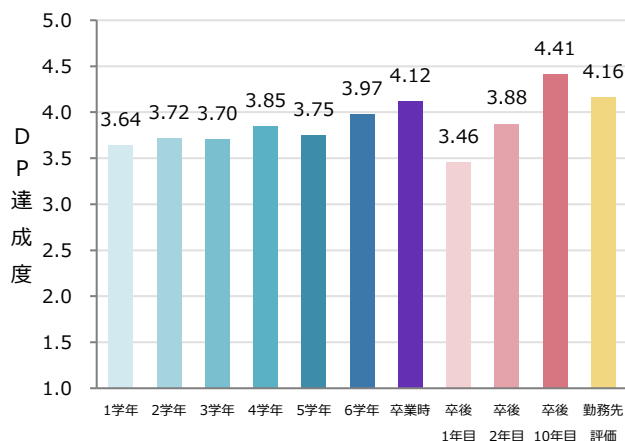
**DP5(2)** 根拠に基づいた医療を基盤とする臨床推論を実践できる。



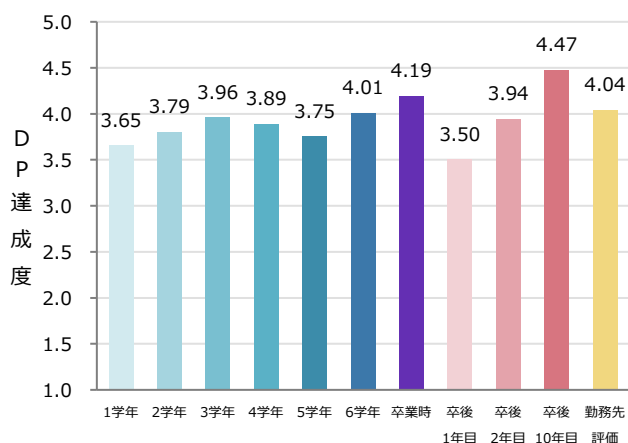
**DP5(3)** 良質で安全な医療に立脚した基本的診療能力・技能を修得する。



**DP6(1)** 科学的な観察力・思考力・表現力を身につけ、自ら問題を解決することができる。

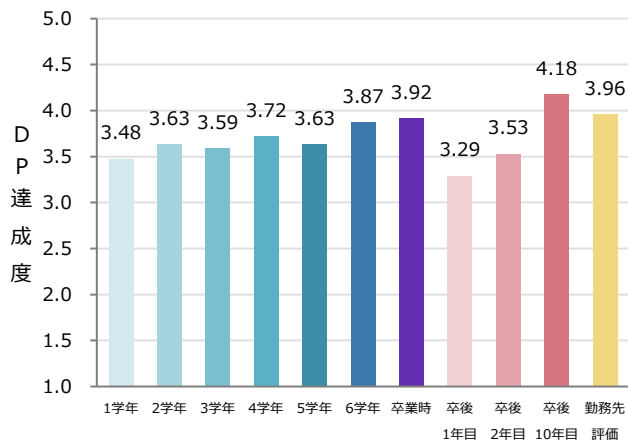


**DP7(1)** 自己主導型学習を実践し、向上心を持ち生涯にわたり学習を継続する姿勢を身につける。

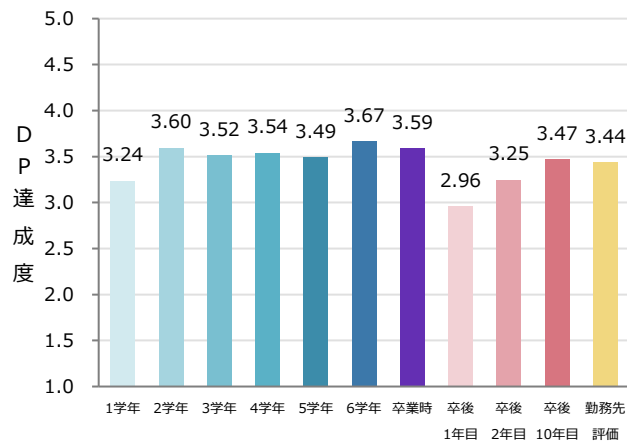


# 在学时～卒業後と勤務先のDP達成度評価

**DP8(1)** リーダーシップを発揮し、多職種連携による医療・研究を实践できる。



**DP9(1)** 国際的視野を持ち、医療人として国際社会に貢献できる。



**DP9(2)** 地域における保健・医療・福祉を理解し、医療人として地域社会に貢献できる。

